週間　大阪日日新聞　2022 年新春号
キタ版（大阪市北区、福島区、西区、中央区）　掲載記事より

夢を仕事にしたカマキリ博士

カマキリ博士という世になかった職業を生み出した渡部宏さん。人間、夢を抱き、突き進めば、おのずと道は開けることを証明してくれる。

渡部が「カマキリ博士になりたい」と決めたのは3歳のとき。自宅の庭で赤ちゃんカマキリに出会い、運命を感じてからだ。

近畿大学の農学部で本格的に学び始めると、昆虫の擬態は気象を利用していることに着目。詳しく研究するため、気象予報士の資格も取得した。卒業後は大学院で9年を研究に費やし、「カマキリの適応的な行動戦略」の論文で博士号を取った。

渡部は大学の先生になり、カマキリの研究に没頭したいと考えていたが、常勤講師のイス取りゲームは厳しい。このまま待っていても…と貧面市ではじめたのが、現在のカマキリ博士の昆虫教室だ。しかし、昆虫のおけいこ教室という世の中にないことを始めたので全然人が集まらない。それでも渡部は「知られれば絶対に成功する」と確信していた。ある日、授業料を1回500円にしてみると、少しずつ近所の子どもたちが集まるようになった。それでも1日の稼ぎは1500円程度。そのお金を一切貯金に回さず、交流会の参加費に充て、自分の夢や仕事について話して回った。「夢を叶えることができたのは、目先の利益を追うのではなく、子どもたちからいただいた大切なお金を人に会うために使い、自分の活動を地道に広めたから」と振り返る。

昆虫科学研究センターISRC
帝塚山大学 非常勤講師
渡部 宏さん

現在は数カ所で教室を開く渡部だが、きっかけは大阪市内から参加していた保護者の「先生おもしろいのに、貧面は遠い。北浜の会議室を無料で貸すから、そこでやってみたら」の声だった。新たな場所で教室を始めると同時に、渡部の地元西宮市にも開校すると、カマキリ博士の人気が一気に高まった。

昆虫教室は、子どもたちの興味を引き出すことを大切にしているため、毎月テーマを設定し、渡部が作成したオリジナル教材を使用。クイズが書かれた昆虫カードやポイントカード集め、工作の時間など、わくわくする工夫が盛りだくさん。なぜだろうと疑問を持ち、自分の意見をみんなの前で発表することも大切にすることから、プレゼン能力も身につくと好評だ。

「昆虫教室をやって昆虫博士を育てたいのではない。昆虫や自然を通して、なぜ？と疑問に思う思考、自身で考える力を養ってもらいたい」と語る渡部。

幼少期に抱いた夢をかなえ、同窓会ではみんなが感動してくれるというが「夢や希望だけでは生き残れない。生きていくには命を懸けないといけないし、生半可じゃ絶対に成功しない」と語る言葉から、どれほど思いを込めた夢か、叶えるためにどれほど犠牲を払ってきたかが、ヒシヒシと伝わってくる。

カマキリ博士の昆虫教室 ―昆虫科学研究センターISRC―

大阪（貧面・北浜）・兵庫（西宮）・京都・奈良を中心に昆虫教室を開校。関西を中心に、幼稚園や小学校、中学校、大学などの教育機関、企業、文化サロンなどで講演活動を行っている。